



『天下の絶勝東尋坊三国芦原電鉄図絵』
 (昭和4 (1929) 年京都電燈株式会社福井支社刊)
 東尋坊の切り立った断崖が目を惹く。
 図絵右上に大きく描かれているのは名刹永平寺。

大正・昭和の鳥瞰図絵
 連載—第7回
吉田初三郎の世界
 世界



天下の絶勝 東尋坊三国芦原電鉄図絵

文・藤本一美
 text by Kazumi FUJIMOTO

初三郎の「福井県鳥瞰図」(昭和八年)や「石川県鳥瞰図」(昭和七八年)など、日本海側から白山(はくさん)や各都市を望む南北を逆転させた発想は、今回の作品にも大胆な構図として生かされている。

左に日本海に突き出た名勝東尋坊の切り立った絶壁と漁船や帆船、観光船を描写し、中央部には悠々とした九頭竜川の大河の流れと湯煙の芦原温泉、右寄り奥に名刹永平寺、その右下には福井市街地と堀に囲まれた福井城跡を大きく表現している。各地のピンクの桜の満開状態は、気持ちを浮き浮きさせて旅心を誘ってくれそうだ。

福井駅から芦原・三国町・東尋坊口までの三国芦原線と永平寺口・永平寺門前行きの永平寺線、勝山・大野三番行きの越前本線は、京都電燈経営の三国芦原電鉄が昭和四年に開業しており(東尋坊口までの延伸は

藤本一美
 首都大学東京(都立大学)非常勤講師。日本国際地図学会常任委員。鳥瞰図・展望図資料室兼山岳情報資料室主宰。
 近・現代の鳥瞰図絵師の作品収集と研究に精力的に取り組んでいる。近著に『旅と風景と地図の科学Ⅱ』(2006年)がある。



えちぜん鉄道株式会社

Echizen Railway Co., Ltd.

設立：平成 14 年 9 月 17 日
 本社：福井市志比口 3 丁目 1 番 8 号



地域の鉄道として 走り続ける、えちてつ。

えちぜん鉄道は福井市、勝山市などが出資する第三セクター方式の鉄道会社。京福電気鉄道が福井県下で運営していた越前本線（現在の勝山永平寺線）・三国芦原線を引き継いで運営するために設立された。この時、永平寺線は収支が見込めないことから廃止されている。アテンダント制度の導入、乗車料金の割引や加盟店での特典が受けられる「えちてつサポーターズクラブ」の開設など、特徴ある利用促進策を講じながら、地域に必要なとされる地域のための鉄道として企業努力を重ねている。



昭和七年、当時の賑やかな様子が如実に理解できる図絵でもある。

赤く太い鉄道路線上には、三国芦原電鉄の（今風にいうとレトロな）車両が三力所で走行し、さらに遙か遠くに北海道・樺太や日本ライン、九州、朝鮮金剛山までも上端の隅に描出している「遊び心」は（いつもの富士山はなぜか東京の文字の陰に控えめに）、初三郎得意の表現である。

また、同年「三国芦原電鉄開通ポスター」（初三郎画）も発行し、宣伝に努めている。

翌昭和五年には、ほぼ同じ構図と絵柄の「芦原三国名所図絵」（天下の絶勝 東尋坊・三国・芦原・永平寺案内図絵）が、京都の合名会社田中本店から刊行され、「芦原三国一帯の風光と情緒とが、世人に拍手して迎えられるのは当然であり、又本図が新装を凝らして再び公刊せられる所以である」（絵に添へて一筆）と、初三郎自ら絵師としての自信あふれる言葉を吐露していて頼もしい。

ちなみに、戦時の配電統制令により京都電燈が解散するのに伴い、昭和十七年、京福電気鉄道が設立され、鉄軌道事業を継承。京福電気鉄道が運営していた越前本線、三国芦原線は平成十四年にえちぜん鉄道に引き継がれている。